

学生企画活動支援事業報告

学生企画活動支援事業とは、学生が自ら企画する事業の内、優れたものに対して大学が経済的支援等を行い、学生自身に実体験させることで、学生の企画力・実践力・社会性を高め、優れた教員等の養成に資することを目的としたもので、平成16年度から実施しています。

今回は、採択された事業のうち、「秋のおでかけ」「ESD 実践勉強会」「つくってたのしい!造形ひろば」「楽器ふれあいコンサート」の活動を紹介します。

秋のおでかけ



集合写真



イルカショー前で



学生実行委員

学生実行委員は2回生2人、1回生2人の4人でした。バスの予約や、バスでのレクリエーション、水族館の地図やしお리를書くなどさまざまな準備をしました。

名古屋港水族館へおでかけ

秋のおでかけは、学生が障害を持つ子どもと保護者と一緒に、普段行くことが難しい遠い場所までバスに乗っておでかけして、みんなの余暇を楽しく充実したものにしようという企画です。

今年度は、総勢66人で名古屋港水族館まで行きました。当日までの準備が大変でしたが、水族館で目を輝かせて魚を見る子どもの姿や、全身を使って楽しさを表現してくれている子どもの様子が見られてとても嬉しかったです。また、実践からの学びを得ることができました。自分自身も成長できる、とてもやりがいのある活動でした。

(記事: 特別支援教育専修 2回生 門田 梓)

ESD 実践勉強会



上の写真(10月に奈良教育大学敷地で開催した、活動風景。グラウンドにテントを張り、一泊二日の野外活動を行いました。)左の写真(11月に行った広島スタジアムの振り返りの活動風景。広島に行くだけでなく、事前・事後学習をしっかりと行い、学びの深化を目指しました。)

平和教育って? ~持続可能な社会のために~

今年度のESD実践勉強会は、「ESDと平和」をテーマに年間を通して20~30名の参加者と共に活動しました。本学周辺に残る戦争遺跡についてのフィールドワークを開催したり、広島県へ見学に行ったり、公益財団法人五井平和財団の方に「ESDと平和の創造」について講話を頂いたりしました。身近な戦争遺跡や成長してから知る原爆など、様々な企画を作ることによって、改めて平和を形にして次世代へ伝えることの大変さと大切さを知ることができました。

(記事: 特別支援教育専修 3回生 板口 咲希)

つくってたのしい!造形ひろば



大学祭期間中に開催

造形ひろばは学生支援企画事業の一環として奈良市を中心とした児童・生徒・保護者を対象に、つくる楽しさを味わってもらい造形活動に親しんでもらう活動です。子ども同士や親子同士のコミュニケーション、地域のつながりの場を造形ひろばを通して作っていくという目標を掲げて開催しました。

今回は平成29年11月3日に開催し、約200人の親子が参加し盛り上がるものとなりました。造形ひろばでは「土粘土」と色のついている粘土と、『本物そっくり』の2つのメニューを用意しました。

来てくれた子どもや保護者の方からは「たのしかった」「家でもやってみたい」「来年もまた来たい」といううれしい声を聞くこともでき、多くの子どもたちが造形活動の楽しさを実感できる活動になりました。

(記事: 美術教育専修 4回生 山下 亮一)

楽器ふれあいコンサート



市内の幼稚園での訪問演奏風景

合奏練習風景

音楽に親しんでもらおう

「楽器ふれあいコンサート」は、総勢45人で、地域の幼稚園や保育園、養護学校で生の吹奏楽演奏を通して、音楽により親しんでもらう活動をしています。

今年度は、幼稚園6箇所、保育園6箇所、子育て支援センター1箇所、認定こども園箇所、養護学校1箇所の計18箇所を訪問しました。

本活動では、実際に本物の楽器に触れてもらう「楽器体験」や、どの楽器から音が鳴っているのかを当てる「楽器クイズ」、「指揮者体験」など、演奏以外の企画も充実させ、音楽の楽しさ・素晴らしさを伝えています。

今年度から、園児と一緒に音楽に合わせて踊り、音楽の魅力を伝える企画を始めました。練習中は恥じらいを捨てきれないメンバーが多く、楽しさをうまく伝えられるか不安でしたが、いざ訪問先に行くと、子供たちの楽しそうな笑顔に感化され、私たち自身も思い切り楽しみ、改めて音楽の魅力を感じることができました。

これからも、一人でも多くの方に、音楽って素敵だなあと感じていただけるような活動をしていきたいと考えています。

(記事: 音楽教育専修 2回生 木下 聡子)